

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立勸興小学校
1 前年度 評価結果の概要	<p>○校内研に熱心に取り組む、指導者の学習指導要領の理解は進んでいる。国語科を中心に児童が主体的に学ぶスタイルが構築できつつある。</p> <p>○異学年交流を効果的に設定し、コロナ禍にあっても児童同士の関わりは深まった。また、いじめ問題に対し、複数の職員による組織的対応（早期発見・早期解決）がなされている。</p> <p>○運動習慣の改善や定着化については、全体指導や個別の指導を行っても、依然、2極化の課題が残る。</p> <p>○教職員の働き方改革については改善は見られるものの、時間外業務時間は45時間を超えている。</p>
2 学校教育目標	<p>個性と創造性に富む子どもの育成</p> <p>～勸興魂「勉強はベストをつくり 運動はたくたになるまで」を校是として～</p>

3 本年度の重点目標	<p>○学力向上の推進…「主体的に学びに向かい、自分の考えをもつ児童」つけたい力を明確にした授業、価値ある家庭学習への転換、すき間読書の奨励</p> <p>○豊かな心の育成…「誰かのことを自分ごととして考えられる子ども」基本的生活習慣の指導徹底、市民性を育む教育の推進、多様な人（価値）との出逢いの促進</p> <p>○特別支援教育の充実…「自分らしさを誇り、自立へ向かう子ども」アセスメントの徹底、個に応じた指導の充実、自立活動の充実</p>
-------------------	--

4 重点取組内容・成果指標 **5 最終評価**

(1) 共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言
	取組内容	成果指標（数値目標）					
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	○共通実践に基づく効果的なマイプランの作成(低・中・高で検討) ○校内研時の自己チェック実施	A	・中間評価後、さらに意識化された実践が増えている。本校が目指す授業は新学習指導要領を具現化したものであり、本校児童に真に「生きる力」をつけるものでありたい。今後、さらなる高みを目指し、妥協なく授業改善を進めていきたい。	A	・先生方が子ども達のために、新しい学習指導要領を学び、授業をより良くしていこうと頑張っていることが分かる。平均値はよくても低位の子どももいるので、今後も努力を続けてほしい。
	○積極的な校内研究への取組み	○単元終末時の振り返りで、本単元で身につけた力を明確に説明できる児童が70%以上	○国語科の授業実践を各学期に1本ずつ紙面で発表をする。 (単元名・学習課題・単元計画・児童の振り返りを基にした成果と課題、A4で1枚程度)	B	・校内研へ真面目に取り組む職員集団である。力もついてきている。しかし、日々の授業の質的転換までは未だ実践が不足する職員もあり、全児童が単元で身に付けるべき資質・能力を意識できている状態にまでは至っていない。	A	・評価が難しいが、積極的に研修会などを実施していることは学校だよりも確認している。時間がとれない毎日だろうが、教師の本分は学習指導なので、研修や研究をがんばってほしい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳の授業の振り返り分析で ①自分ごと、②多面的・多角的な学びを回答している児童70%以上	○内容項目を①自分ごと、②多面的・多角的に学べる発問の工夫 ○振り返りの積み上げと分析 ○多様な人との出会いの設定	A	・障害のある方、外国にルーツがある方など、多様な方々との出会いを意図的に仕組んだことは効果的だった(児童感想文)。道徳の授業については理念の理解は進んできた。今後は研修や実践を通じて授業力をつけていく必要がある。	A	・子ども達の心の問題は簡単にはいかないと思う。道徳の授業も大事だが、日ごろから子ども達をよくみて、その時々、実際の場面で指導してほしい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○毎月のアンケートを確実に実施し、些細な記述も見逃さず、同学年で共有し、対応をする教師80%以上	○確実にいいアンケートの実施 →学年での共有及び管理職への報告 ○傾聴の研修実施(夏季休業中の教育相談研修)	AA	・毎月のアンケートに記載されていることはひとつ残らず、学年で対応がなされている。保護者アンケートでも98.2%の高い評価とコメントをいただいている。教職員の対人援助に関する理解度も高まっている(よってAを超えてAA)。	AA	・とても丁寧に対応していることが見てとれる。特に、アンケートの全ての記述内容に、学年で対応し、家庭連絡まで徹底しているのは素晴らしい。また、それを教務や管理職まで報告するシステムも良い。コメントを担任は青・管理職は赤など色分けをしたら、分かりやすいし、数年後にも生かせるものになるのではないかな。
	◎ふるさと勸興を誇りに、自分の夢や目標について考える教育の推進	◎「勸興が好きだ」と回答する1～3年生、「勸興を誇りに思う」と回答する4～6年生が80%以上	◎児童が地域を学ぶ場、児童の地域における活躍の場、「出番・役割・承認」の場を各学期に1回以上、教育課程に位置づける ◎「勸興読本」の活用	A	・簡単に中止とはせず、コロナ禍においてできることを実施できた。児童・保護者ともに評価は高い。来年度は勸興読本の活用を推進したい。	A	・地域行事が次々と中止になる中、学校での行事等は時機を見て、できる範囲で工夫して実施したことは素晴らしい。特に、リモートの活用がコロナ禍の新しい学校づくりにも効果的だったと思う。
●健康・体づくり	①運動習慣の改善や定着	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒90%以上	○徒歩通学の価値づけ及び奨励 ・全校朝会で啓発 ・学校だより・学級だよりで発信2回以上 ・学級懇談時などでの協力依頼 ○運動の重要性の啓発 ・保健だよりで啓発	A	・全校朝会の校長講話や学校だよりによって「歩いて登校」が本校の魅力のひとつであることを児童自身が誇りに思うようになってきた。冬の寒い時期になっても徒歩登校率は下がっていない。	A	・たくましい子どもの育成に必要なだけでなく、歩いて登校することで地域の方々とのつながりも生まれ、あいさつなども体験的に学ぶことができる。地域も協力したい。
	○ゲーム・インターネット・SNSの節度ある適切な使用方法	○端末を利用する時間を守っていると回答する保護者の割合が80%以上	○身近に起こっている問題を取り上げた学級指導を教育課程に位置付け実施する ○学級だよりで、保護者に諸問題に関する情報を提供し、啓発をする	A	・保護者アンケートでは90.8%がルールはあると答えているが、毎月のアンケートでは固定化された児童(約12%)について「守られていない」との回答がある。講演会の実施や学級指導にて端末利用については指導を行っているものの、家庭内での出来事なので保護者の意識が変わらないと今以上の改善は難しいと思われる。	A	・学校に、保護者への啓発まで担わせるのはどうかと思う。本来なら家庭内のことは保護者の責任において教育すべきこと。ただし、最新の情報(危険性)等は積極的に学校から発信してほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●超過勤務時間が月45時間以内の職員80%以上	○業務の効率化アイデアの共有 ○タイムマネジメント力育成のために18時30分以降の残業の許可制 ○提出期限ボードの活用	B	・コロナ禍において対応すべきことが次々に生じてきているが、職員の連帯と協力で乗り切っている。携帯電話と健康観察アプリの導入は非常に効果的だった。個人的にスケジュール管理を苦手とする職員への指導が課題となっている。	B	・これだけの工夫をしているのに、超過勤務時間が多いのは何でも学校に担わせる昨今の風潮があるのではないかな。いくらあっても○教育が増え、業務が次から次へと増えているようだ。保護者が学校がしてくれて当たり前になってはいないかな。サービスを受ける立場ではなく、学校と両輪で能動的に育んでいかないと学校の多忙化にストップはかからな
	○探さない・切らさない・ためない整理整頓(職員室・倉庫・事務室・印刷室)	○机上・職員室棚・事務室・用具倉庫・印刷室の自己評価をA以上にする。(S・A・B・C・D)の5段階評価	○職員連絡会開始時に自己評価を行い、閉会後の10分間で共有スペースの片付けを行う。	A	・学校全体の整理整頓は意識されている。職員ひとりひとりを見とると苦手な職員がいるため、システム化(時間の確保・手順・取組の見える化)を図りたい。	A	・一流と言われる企業は「3S」等、整理整頓を業務の前提としている。教育委員会への提出物等は校内のデータを効率的に活用できるよう、データ管理に工夫ができないかな。

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言
	取組内容	成果指標（数値目標）					
○特別支援教育	○「エンパワーメントの尊重」を基本理念とした対人援助の理解 ○必要な児童の「個別の指導計画」の効果的な運用	○対人援助の理解に関する自己評価80% ○「個別の指導計画」を児童本人や保護者と共有し、効果的に活用することで、児童の困り感(不適応)に改善が見られたとする教職員の割合を80%以上とする。 (作成や職員共有はできている)	○対人援助に関するミニ研の実施 ○自立に関するミニ研の実施 ○アセスメントに基づく児童理解の徹底 ○「個別の指導計画」等の記録を活用した児童面談や保護者面談の実施	A	・児童ひとりひとりに内なる能力があることやどの児童もがんばりたいと思っていること、さらに、児童に「援助要請」の力を育成することの重要性について全職員の理解がなされている。児童に共感的に寄り添い、児童のよき理解者でありたいとする会話や雰囲気職員室にはある。個別の指導計画に基づく青ファイルもとてもいいに作成がなされている。	A	・講師を招いた研修やの継続した記録及び情報共有など、良くやっている。子ども達が相談しやすい、話しやすい先生たちであることはとても大事であり、特に、悩みを抱えたり、学習が分からなかったりする子ども達には先生たちの存在は大きいと思う。 特別支援教育に限らず、さまざまな問題の未然防止や対策になっていると思われる。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>・職員集団が学校評価の重点取組をよく理解することで、同じ方向を向くことができた。</p> <p>・学習の個別最適化を視点に全員が能力によらず能動的に学べるような授業改善が必要であり、校内研の充実に向け、取組みを進めたい。</p> <p>・何をもち「勸興」を誇りに思うのか、地域の歴史や文化等について、発達段階に応じながら総合的に学ぶ学習を展開したい。</p> <p>・自立を目標とした教職員の全児童への関わりは成果が表れ、援助要請や自己決定できる児童が増えてきた。今後も続けていきたい。</p>
-----------------------	--